

協伸商会穀物レポート [KKR] Vol. 072

(2024/25年度 USDA米国農務省 7月12日発表)

[ハイライト]

① USDAの24/25年度穀物生産予想は概ね順調だが、品目別生産動向はこの四半世紀で大きく構造転換したことに注目！

6月半ばに発表されたUSDAの2024/25年度「穀物需給報告」によれば、世界の大豆を除く穀物生産量は28.3億トと2年連続で史上最高を更新する見通しで、品目的には小麦は7.9億ト/コーン12.2億ト/コメ5.3億ト/大豆4.2億トと概ね順調な生産が予測され、下記の7月予測もそれを踏襲した内容となっている。ここで改めてこの4半世紀の穀物生産動向を見ると、2000/01の穀物生産量は18.5億ト、小麦5.8億ト/コーン5.9億ト/コメ5.9億ト/大豆1.8億トと穀物全体では約10億ト増（+53%）/小麦2.1億ト増（+36%）/コーン6.3億ト増（+207%）/コメ0.6億ト減（-10%）/大豆2.4億ト増（+230%）と明らかにこの間幹の社会経済の構造変化を物語る結果である。端的には食肉生産拡大等に繋がるコーン/大豆が倍増し両方で合計8.5億ト増加、一方、主食である小麦は2億ト増加したがローカル穀物のコメは6千万ト減という現象。この状況は、今後の人口増/バイオエネルギー普及/食糧安保論の台頭等の動きの中でどうなるか注目である。

② ブラジル/アルゼンチンの大豆/コーンの生産拡大が世界を牽引、米国はコーン生産拡大で存在感

別添のブラジル/アルゼンチンの大豆生産と輸出動向の中で、両国の大豆生産と輸出規模の大きさについて詳細触れたが、同じ時系列でみたコーンも含めた生産動向は次の通り。（コーン）ブラジル39⇒127百万ト、アルゼンチン15⇒51百万ト。（大豆）ブラジル39⇒169百万ト、アルゼンチン28⇒51百万トと両国合わせた生産/増加量はコーン178 / +124百万ト、大豆220 / +153百万トと両国合わせた増加量は2.8億トに登り世界生産増を牽引している。また更に注目すべきは、両国の輸出量はコーンで88百万ト/粒大豆は110百万トと両品目は世界輸出量の45%と64%を占め南米の存在感を高めている。世界穀物貿易においては米国が永らく#1の地位を占めていたが、23/24年度輸出量は全品目合わせ1.3億トに留まり、南米両国の2億トが凌駕している。またこれに大豆粕を含めれば輸出量は約2.5億トとなりバルク船の引き合いは強まっている。一方米国は、約6億トの世界最大の穀物生産大国（コーン3.9/大豆1.2/小麦0.5/その他0.3億ト）であり、その内約4.5億トは国内畜産/食用/バイオエネルギー等に向いているが、米国は最も安定的な穀物輸出国であることに変化はない。

1、世界穀物需給の概要（大豆除く）

① 生産量：	2,837百万ト（前年比1.0%	増↑、前月比0.3%	増↑）
② 消費量：	2,839百万ト（前年比0.8%	増↑、前月比0.1%	増↑）
③ 貿易量：	499百万ト（前年比3.9%	減↓、前月比0.1%	減↓）

2、小麦

① 生産量：	796百万ト（前年比0.9%	増↑、前月比0.7%	増↑）
② 消費量：	800百万ト（前年比0.1%	増↑、前月比0.2%	増↑）
③ 輸出量：	213百万ト（前年比3.5%	減↓、前月比0.0%	⇒）
④ 在庫量：	257百万ト（前年比1.4%	減↓、前月比2.0%	増↑） / （在庫率 32%）うち中国135百万ト、占有率52%
⑤ 価格：	\$5.72/Bu （前年\$6.40/Bu / 前月\$6.28/Bu）と前月比\$0.56 下落。		
⑥ 概況：	世界生産量は霜害によりロシア/UKRが大幅減産（ロ91⇒83、U23⇒19百万ト）となったが米国/中国/インド等の増産により前年を若干上回り <u>過去最高を更新する見通し</u> 。消費量は8億ト乗せ、輸出量は2億ト超えて順調だが価格は低水準。		

3、とうもろこし

① 生産量：	1,225百万ト（前年比0.1%	減↓、前月比0.3%	増↑）
② 消費量：	1,222百万ト（前年比0.3%	増↑、前月比0.0%	⇒）
③ 輸出量：	192百万ト（前年比4.5%	減↓、前月比0.0%	⇒）
④ 在庫量：	312百万ト（前年比0.8%	増↑、前月比0.3%	増↑） / （在庫率 25%）うち中国213百万ト、占有率68%
⑤ 価格：	\$4.11/Bu （前年\$5.61/Bu / 前月\$4.49/Bu）と前月比\$0.38 下落。		
⑥ 概況：	世界生産量は米国が前年より微減だが中国2.9/ブラジル1.3億トと過去最高で全体ではほぼ前年並みの12億ト台を維持する見通し。輸出量は中国輸入が減少した為2億トに届かず。価格は期末在庫は生産が消費を上回った為若干増加したことを受け6月末に一時\$3.97まで下落し20年9月以来の安値、またロシアのUKR侵攻22年4月のほぼ半値と低迷。		

4、大豆

① 生産量：	422百万ト（前年比6.7%	増↑、前月比0.1%	減↓）
② 消費量：	402百万ト（前年比5.0%	増↑、前月比0.0%	⇒）
③ 輸出量：	180百万ト（前年比2.9%	増↑、前月比0.0%	⇒）
④ 在庫量：	128百万ト（前年比14.8%	増↑、前月比0.1%	減↓） / （在庫率 32%）うちBRA39/ARG28百万ト
⑤ 価格：	\$11.89/Bu （前年\$14.86/Bu / 前月\$11.79/Bu）と前月比\$0.10 上昇。		
⑥ 概況：	世界生産量はブラジルの増産が止まらず前年比25百万ト増の4.2億トと史上最高見通し。消費量も5%増で4億ト台に乗る見通しで急激に市場全体が膨張している。これは10年前の2015年3.2億ト比1億ト/30%超の増加で他に類例がない。この背景は本的には <u>蛋白源としての需要増とバイオエネルギー利用拡大</u> があると言える。		

世界の穀物・大豆等の需給

2024年7月12日
米国農務省発表： 単位 1 0 0 万トン

主要穀物世界の需給								
		生産量	総供給量	貿易量	総使用量	期末在庫量		
全穀物	2022/23	2,756	3,555	496	2,771	784		
	2023/24	2,810	3,594	519	2,818	776		
	2024/25	6月	2,830	3,605	500	2,837	768	
	2024/25	7月	2,837	3,613	499	2,839	774	
小麦	2022/23	789	1,062	221	791	271		
	2023/24	789	1,060	221	799	261		
	2024/25	6月	791	1,050	213	798	252	
	2024/25	7月	796	1,057	213	800	257	
粗粒穀物 (とうもろこし等) 注1	2022/23	1,452	1,793	220	1,460	334		
	2023/24	1,500	1,834	244	1,496	338		
	2024/25	6月	1,511	1,850	233	1,513	338	
	2024/25	7月	1,512	1,850	232	1,512	338	
米	2022/23	516	700	55	520	179		
	2023/24	521	700	54	523	177		
	2024/25	6月	528	704	54	526	178	
	2024/25	7月	528	705	55	527	178	
大豆	2022/23	378	471	172	370	101		
	2023/24	395	496	175	385	111		
	2024/25	6月	422	533	180	402	132	
	2024/25	7月	422	533	180	402	132	

世界のとうもろこし需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	6月	312.39	1,220.54	186.16	1,222.16	191.75	310.77
	7月	309.13	1,224.79	186.51	1,222.28	191.81	311.64
アメリカ	6月	51.36	377.46	0.64	320.18	55.88	53.39
	7月	47.67	383.56	0.64	322.09	56.52	53.26
アルゼンチン	6月	1.54	51.00	0.01	14.80	36.00	1.74
	7月	1.54	51.00	0.01	14.80	36.00	1.74
ブラジル	6月	3.84	127.00	1.50	80.50	49.00	2.84
	7月	3.84	127.00	1.50	80.50	49.00	2.84
EU	6月	7.59	64.80	18.00	78.70	4.20	7.49
	7月	7.59	64.00	18.00	78.10	4.00	7.49
日本	6月	1.31	0.02	15.50	15.55	0.00	1.27
	7月	1.31	0.02	15.50	15.55	0.00	1.27
中国	6月	210.86	292.00	23.00	313.00	0.02	212.84
	7月	210.86	292.00	23.00	313.00	0.02	212.84
ロシア	6月	0.76	15.40	0.05	10.80	5.00	0.41
	7月	0.76	15.00	0.05	10.80	4.60	0.41
ウクライナ	6月	2.91	27.70	0.02	4.65	24.50	1.48
	7月	1.51	27.70	0.02	4.05	24.50	0.68

世界の大豆需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	6月	111.07	422.26	176.40	401.63	180.20	127.90
	7月	111.25	421.85	176.40	401.54	180.20	127.76
アメリカ	6月	9.53	121.11	0.41	68.99	49.67	12.38
	7月	9.40	120.70	0.41	68.99	49.67	11.85
アルゼンチン	6月	26.15	51.00	5.50	47.60	5.50	29.55
	7月	24.85	51.00	5.50	47.60	5.50	28.25
ブラジル	6月	30.57	169.00	0.15	58.10	105.00	36.62
	7月	29.72	169.00	0.15	58.10	105.00	35.77
中国	6月	36.38	20.70	109.00	126.80	0.10	39.18
	7月	39.38	20.70	109.00	126.80	0.10	42.18
EU	6月	1.46	3.05	14.30	17.02	0.30	1.49
	7月	1.36	3.05	14.30	17.02	0.30	1.39

世界の小麦需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	6月	259.56	790.75	207.08	798.04	212.81	252.27
	7月	260.99	796.19	206.70	799.94	212.89	257.24
アメリカ	6月	18.71	51.02	3.27	30.59	21.77	20.64
	7月	19.11	54.66	2.86	30.86	22.45	23.31
アルゼンチン	6月	4.29	17.50	0.01	7.05	11.50	3.25
	7月	4.29	18.00	0.01	7.05	11.50	3.75
オーストラリア	6月	3.57	29.00	0.20	7.00	22.00	3.77
	7月	3.57	29.00	0.20	7.00	22.00	3.77
カナダ	6月	1.87	34.00	0.55	9.30	24.50	2.62
	7月	1.85	35.00	0.55	9.30	25.00	3.10
EU	6月	15.19	130.50	10.00	109.25	35.00	11.44
	7月	14.69	130.00	10.00	109.25	34.50	10.94
中国	6月	133.41	140.00	11.00	151.00	0.90	132.51
	7月	134.41	140.00	12.00	151.00	0.90	134.51
インド	6月	7.50	114.00	0.30	113.00	0.30	8.50
	7月	7.50	114.00	0.30	113.00	0.30	8.50
ロシア	6月	11.19	83.00	0.30	38.75	48.00	7.74
	7月	10.19	83.00	0.30	38.75	48.00	6.74
ウクライナ	6月	1.08	19.50	0.08	6.70	13.00	0.96
	7月	1.08	19.50	0.08	6.70	13.00	0.96

脚注1：粗粒穀物はとうもろこし、マイロ、大麦、燕麦、ライ麦等の計で約80%がとうもろこしである。
脚注2：年度は穀物年度。地域・作物により異なる。例：アメリカ産とうもろこし、大豆：9月～8月。

世界の穀物輸出を牽引する大豆生産の拡大と油脂需要の動向(3)

① 先月号で述べた通り、南米ブラジルはいまや世界最大の大豆生産/輸出大国でありその数字は昨年度154 /102 百万トと米国を大きく凌駕している。一方、隣国アルゼンチンはブラジルの影に隠れて存在感が薄いが大豆生産量は昨年度50百万トとブラジル/米国に次いで世界第3位の地位を占めている。しかしながら、両国の大豆生産以降の粒大豆/加工品の輸出/国内消費の流れは「図」に示した様に**全く対照的**である。その意味で、まずは今まで触れてなかったアルゼンチンの地政学的位置と農業について以下概観したい。

② 同国の位置は南緯25-50度/西経60度線上にほぼ南北約3,000km連なり、**国土面積279万km²**(日本の約7.5倍)/**耕地面積39百万ha**(日本の約10倍)。その耕地はブラジル南部地域の西に隣接し南緯30-40度ラプラタ川流域を中心とした**年間降水量500-1,000mm**パンパ(草原)地帯に**約80%集中**し**世界3大穀倉地帯**の一つとされている。主要作物の昨年度生産量は小麦16/コーン53/大豆50/その他8/**合計127百万ト**と世界第6位。輸出量も小麦9/コーン38/大豆5/その他4/**合計56百万ト**と世界第5位の穀物生産/輸出大国である。生産量の約半分が輸出されるのは人口約45百万人と国内市場規模が小さく、また元々恵まれた自然条件の下で**外貨獲得/輸出目的に畜産も含め農業生産拡大**が行われてきたことが背景である。

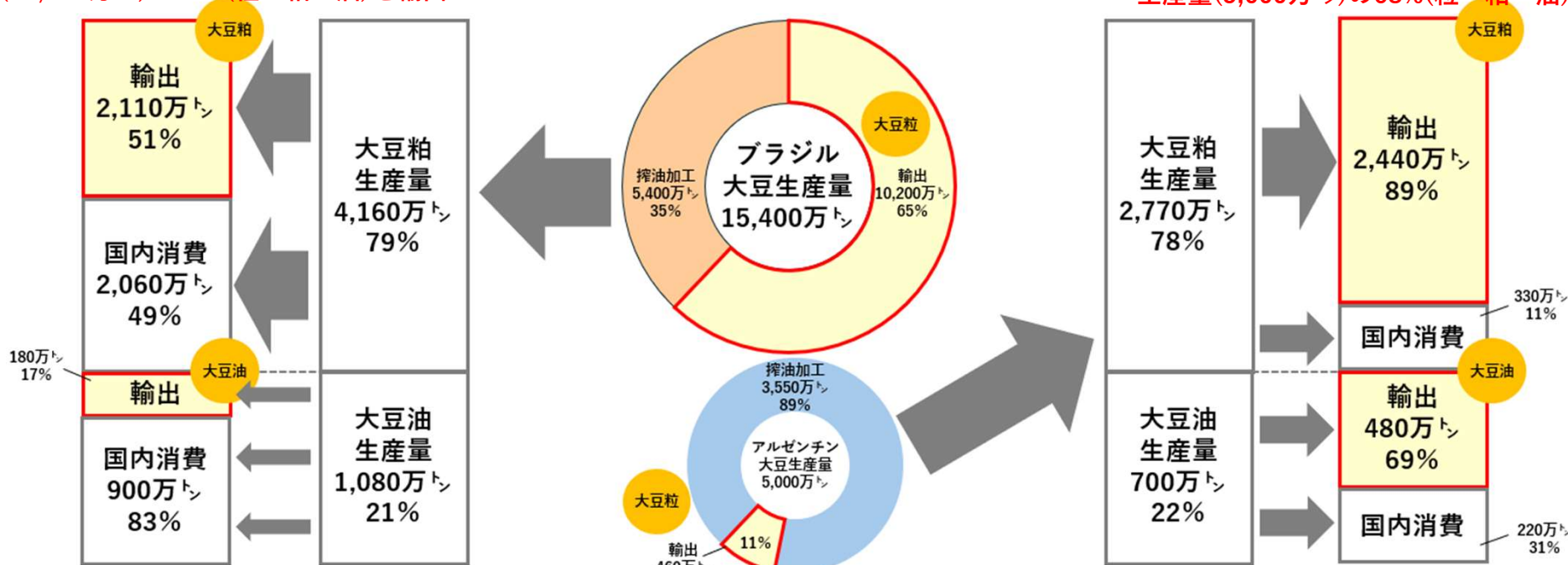
③ 添付「図」はブラジルとアルゼンチン両国の大豆の輸出/国内消費を比較しているが、ブラジルは生産量の2/3がそのまま「粒大豆」として輸出される**極めてシンプルな構図**であるのに対し、アルゼンチンは生産量の大半は搾油加工の後「大豆粕」と「大豆油」として輸出される構図である。具体的には、ブラジルは生産量の**65%が粒大豆として輸出**され、国内で搾油加工後の大豆粕4,160万トのうち**51%の2,110万トが輸出**、また大豆油1,080万トのうち180万トが輸出、その結果 **粒/粕/油合計12,490百万ト**の膨大な数量が輸出され、生産量15,400百万トに対し**輸出比率は何と約81%**！要するにブラジルの大豆生産は世界的な大豆需要拡大に合わせ急激に増産され、世界生産397百万トの**約4割**、世界貿易量172百万トの**約6割**を占めるという**極めて偏在した世界**となっている。この構図を牽引しているのは輸入量105百万トの中国であり以前にコメントした通りブラジルは「**中国の大豆畑**」と言っても過言ではない。

④ 一方アルゼンチンは、大豆粒での輸出は僅か460万ト(国内搾油含めた数字の11%)と限定的だが、代わりに搾油後の**大豆粕輸出が全体生産量の約9割の2,440万ト**。大豆油輸出量も生産量の約7割の480万トと両者とも**世界最大の輸出国**(世界シェア其々34%/42%)である。これらを合わせた**輸出量は3,380万ト**と生産量対比68%、また期末在庫(26百万ト)を除いた数量対比では約84%とブラジルを上回る。同国が大豆搾油加工貿易に傾斜した背景は ①大豆粕/油の**輸出税が31%と粒大豆(33%)に比べ相対的に有利** ②搾油業界には**モレノ / AGD / CGL / BUNGE等のメジャー企業が進出**、産地に近いパラナ川流域のロサリオ周辺に年間**大豆搾油100万ト超の大規模工場が展開**(全体では35百万ト/日本の12倍)し競争力大 ③**輸出先がEU7百万ト**を中心に3百万ト規模のベトナム/インドネシア等への拡大が挙げられる。この南米2カ国の大豆生産量は合計204 百万トと世界の51%、粒大豆輸出量は107百万トと同62%、粒/粕/油を含めた輸出量は158百万トと同62%となり近年の世界の大豆需給と物流は南米を中心に回っており、**大豆粕を含めたバルク船の引き合いも強まっている**。(続く)

生産量(15,400万ト)の81%(粒・粕・油)を輸出

【図】 ブラジル・アルゼンチンの大豆輸出状況

生産量(5,000万ト)の68%(粒・粕・油)を輸出



注1: 数量は23/24年度USDA統計
 注2: 両国の輸出/搾油数量は期首/期末在庫が加味されるため生産量とは一致しない
 注3: 大豆粕/大豆油生産量合計は水分等が減量となるため搾油加工合計とは一致しない